

🌐 日本企業は、なぜ海外へ出たのか

🟢 初級レベル

「日本を捨てた」のではなく、仕事を守るためだった？

日本の会社が海外にたくさんの工場をつくった時代がありました。

その話を聞くと、

「外国のほうが人件費が安かったから、日本の工場をやめて海外へ行ったんでしょう？」

と思うかもしれません。

たしかに、人件費や生産コストは理由の一つでした。

でも、それだけではありません。

特に小さな会社や町工場まで考えると、もっと切実な事情が見えてきます。

🏠 いつものお客さんが海外へ行ってしまった

たとえば、日本に小さな「ネジ工場」があったとしましょう。

この工場は、長い間、大きな自動車会社へネジを納めていました。

ところがある日、自動車会社から言われます。

「今度、外国に大きな工場をつくります。」

ネジ工場の社長さんは、

「そうですか。頑張ってください。」

だけでは済みません。

なぜなら、自分の会社の大切なお客さんが海外へ行ってしまうからです。

✈️ 「一緒に来てもらえませんか？」

さらに自動車会社から、

「外国の工場でも、今までと同じネジを作ってもらえませんか？」

と言われたとします。

これは困ります。

海外へ工場をつくるには、たくさんのお金が必要です。

知らない土地です。

言葉も違います。

法律も違います。

働く人も探さなければなりません。

失敗したら、大きな借金が残るかもしれません。

社長さんだって、

「よーし、外国へ冒険に行くぞ！」

と思ったわけではないでしょう。

むしろ、

「できれば今まで通り、日本で仕事をしたい」
と思った会社もあったはずです。

 **行かないのも怖い。行くのも怖い。**

ところが海外へ行かなければ、どうなるでしょう。
大切なお客さんからの注文が減るかもしれません。
そうなれば、
会社の売上が減る。
社員の仕事が減る。
給料を払うのも難しくなる。
最悪の場合、会社そのものが続けられなくなるかもしれません。
つまり、
海外へ行くのも怖い。
でも、
日本に残るのも怖い。
そんな選択を迫られた会社もあったのです。

 **守りたかったもの**

では、なぜ海外へ出たのでしょうか。
もっと儲けたかったから？
もちろん、そういう会社もあったでしょう。
でも、それだけではありません。
会社を残したい。
仕事を残したい。
社員とその家族の暮らしを守りたい。
そのために、大きなリスクを背負って海外へ出た会社もあります。
特に中小企業を見ると、この視点を忘れたくありません。

 **大きな会社にも、いろいろな理由があった**

大企業にも、人件費だけではないさまざまな理由がありました。
日本の商品を買ってくれる人が海外に増えた。
海外のお客さんの近くで作ったほうが便利になった。
取引先が海外へ移った。
円高などで、日本から輸出するより海外で作ったほうがよい場合もあった。
つまり企業は、その時代その時代で、
「どこで作れば会社を続けられるだろう？」

と考えていたわけです。

学校で考えると分かりやすい

ここで学校にたとえてみましょう。

ある町で子どもの数がどんどん減ったとします。

空いている教室が増えます。

すると学校をまとめることがあります。

その時点では、それが合理的な判断だったのでしょう。

ところが 20 年後、突然その町にたくさんの家族が引っ越してきた。

子どもが増えました。

すると今度は、

「教室が足りない！」

となります。

だからといって、

「昔、学校をまとめた人が間違っていた！」

とは簡単には言えません。

そのときと今では、条件が違うからです。

企業も同じように考えることができます。

時代が変われば、答えも変わる

昔は海外へ出ることが、会社を守るための答えだった。

ところが今度は、

半導体工場が日本にできる。

AI やデータセンターへの投資が増える。

日本で作ることの大切さが見直される。

世界の情勢も変わる。

すると企業は、また考えます。

「今度は日本で作ったほうがいいのか？」

つまり、

企業がコロコロ考えを変えたものではありません。

周りの条件が変われば、いちばん良い答えも変わるのです。

そして今度は「日本へ戻ればいい」だけでもない

ここでもう一つ大切なことがあります。

海外へ出た工場を、

「それなら全部、日本へ戻せばいい」

と言うのも簡単ではありません。
日本へ新しい工場をつくるにも、お金が必要です。
働く人が必要です。
技術者が必要です。
電気も必要です。
土地も必要です。
部品を作る会社も必要です。
海外へ出ることが大きな決断だったように、
日本へもう一度投資することも、大きな決断
なのです。

だから周りの会社まで見てみよう

大きな半導体工場ができた。
ニュースでは、
「○兆円の巨大投資！」
と報道されます。
でも NIGHT FLIGHT では、そこで終わりません。
その工場の周りにはいる、
建設会社。
部品会社。
材料会社。
運送会社。
電気設備会社。
そして小さな町工場。
そこまで仕事が届いているでしょうか。
そして、その会社にちゃんと利益が残っているでしょうか。
社員の給料を上げられたでしょうか。
さらに新しい機械を買えるでしょうか。
そこまでお金が流れて初めて、本当の国内回帰に近づく。
私たちは、そう考えてみます。

初級レベルのポイント

日本企業が海外へ出た理由を、
「安い人件費を求めて、日本を捨てた」
だけで考えると、大切な部分を見落としてしまいます。
特に中小企業の中には、

お客さんが海外へ行った

↓

仕事を守るためについていった

↓

大きなリスクを背負って海外へ進出した

という会社もありました。

だから、昔の判断を今の条件だけで責めるのではなく、

「そのとき、その会社はなぜそうしたのだろう？」

と考える。

そして今、条件が再び変わり始めています。

ここで覚えておきたいのは、この一文です。

****企業が変わったのではない。**

企業を取り巻く条件が変わった。 **

そして次の「？」です。

では、なぜ今、日本国内への投資がもう一度注目されているのでしょうか？

 寄り道研究所

NIGHT FLIGHT SPECIAL I 【世界編】

 初級レベル解説でした。

もう少し詳しく、円高・海外市場・取引先・人件費・サプライチェーンまで知りたい方は、

 中級レベルへ。

 次の寄り道へ、ご搭乗ください。